

⑪<生徒指導 集団における指導>

情報交換を密にして、職員で連携して集団指導にあたろう

【キーワード】職員による共通理解 職員の児童生徒理解

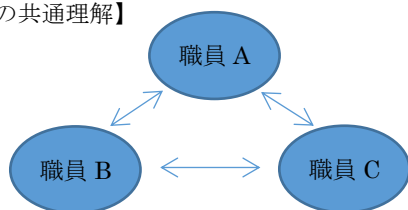
【事例：日常的な児童生徒理解の積み重ね】

1 ねらい

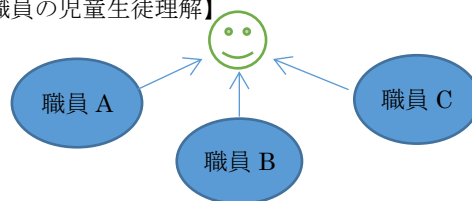
集団指導に関わる情報交換を職員会議，学年会議，または日常的な打ち合わせ会など様々な場面で，定期的，計画的に綿密に行う。それにより，職員間で共通した児童生徒理解に取り組み，同一步調の取れた指導方法を作り上げていく。

（集団指導と個別指導は生徒指導の両輪と考え，情報交換の際には，児童生徒個々についての理解や指導方法なども積極的に話し合う。）

【職員相互の共通理解】



【職員の児童生徒理解】



2 内容

1 週間の流れ	内 容
月	【朝の学年打ち合わせ会】一週間の指導の重点確認
火	【職員朝会】生徒指導上の報告 指導方法報告（緊急なもの）
水	【職員会議】個々の生徒の特徴について職員間で共通理解を行う。 指導の方向性，経過を伝え，意見交換をする。
木	【学年会議】学級の様子，個々の児童生徒の情報交換 指導の方向性検討
金	【朝の学年打ち合わせ会】特に配慮を要する生徒，緊急的な課題について情報を共有し，指導について検討・確認をする。

3 方法

特別な研修の時間を設けるのではなく，日常的に頻繁に実践を積み重ねていきます。

(1) 児童生徒の能力，適性，興味，関心，現段階の意欲や目標，家庭状況，これまでの指導の経緯などを情報交換する。（本人との対話や保護者，クラブ活動，部活動や教科の担当者，同学年の先生方から）

(2) 個々の生徒の特徴を踏まえて，集団の中での役割や活躍できる機会を考える。また，集団全体への指導の仕方を考える。

研修後のまとめ

○集団の特徴を捉えるには，個々の特徴をみていくことから始めることが大切だと感じました。そこから集団指導（全体指導）の糸口をみつけていこうと思います。

（伸長期の教員）

▶セルフチェック⑪-5

情報交換を密にして、職員で連携して集団指導にあたろう

【キーワード】職員による共通理解 職員の児童生徒理解

【事例：Q-U調査をもとに教師間で連携した集団指導】

1 ねらい

- ・Q-U調査をもとにして、学級の集団づくりにおける指導方法を考える。
- ・学級の集団づくりにおける指導方法を教師個人で考えずに、教師間で連携して考える。

2 内容

月	内容	担当
4	1回目のQ-U調査を実施する。	学級担任
5	校内研修において、Q-U調査結果を検証し合う。	全職員
6～10	校内研修の結果をもとに、具体的な指導を実践する。	学級担任
11	2回目のQ-U調査を実施する。	学級担任
12	指導によりどのような変容があったか検証する。	全職員
1～3	指導方法を見直し、さらに指導を実践する。	学級担任

3 方法

- (1) 5月の校内研修会では、あるクラスのQ-U結果を利用し、教師間で学級集団づくりのアイデアを出し合う。教師間のチームワークを発揮し、具体的な指導方法を考える。事例提供者からの発表を聞き、学級の課題・個々の生徒の様子について質疑応答を行う。ブレインストーミングを利用し、問題の正体を明確化する。解決策を具体的な行動レベルで考える。教師のパーソナリティに原因をもとめないよう配慮する。
- (2) 6月からは具体的な指導実践を重ね、学年会にて進捗状況を報告し、アドバイスをもらう。
- (3) 11月以降に再度、Q-U調査を行い、指導実践の成果を明らかにし、それによって新たな実践方法を見出す。

4 校内研修の様子

事例提供者の先生が語りやすいように、周囲の先生方が共感的な態度で話し合いました。参加者が自分事の問題として考えている様子がありました。



研修後のまとめ

- 自分のクラスの事例を提供することに抵抗がありましたが、研修会進行役のベテランの先生が私個人の指導責任ではなく、全職員の課題として考えるというスタンスで研修会を開いていただきありがたかった。同僚のアドバイスをもとに学級経営の悩みについて具体的な指導方法を見つけることができました。(基礎形成期の教員)